

北海道トコトコ道中記（第2次） B 高鍋 学

【第7日】6月8日（日） 小雨 小樽市 JR 朝里 ～ 札幌 30km

午前中歩いている最中に、余りにも突然だったが、小樽在住の親戚へ電話を入れた。運良く連絡が取れ、休憩していた JR 銭函駅まで車で迎えに来てもらって自宅を訪問。話を交わすのも、会うのも 50 年ぶり。雨で中止になったお孫さんの運動会の昼食を家族の皆さんと一緒にいただくことができ、何にも増してご馳走だった。迷った末の電話だったが、会えて本当によかった。車で銭函駅近くまで送ってもらい、札幌へ向かう。



札幌の街に入ると遠くから何やら音楽が聞こえ、札幌よさこいソーラン祭の最終日の終り溢れていた。

宿は「東横イン札幌駅南口」朝食付 10,661円。泊目はポイントが溜まって無料。ラッキー。宿泊



【第8日】6月9日（月） 晴 札幌滞在

休養と友人に会うため、歩きは一日お休み。夕方、すすきので、長年札幌の市民吹奏楽団を指導している友人夫妻や、そのお仲間と歓談。懐かしく楽しいひと時だった。

宿は「東横イン札幌駅南口」2日目泊。



【第9日】6月10日（火）晴時々小雨

札幌 ～ 当別町 JR 北海道医療大学前 29km

札幌市街地を過ぎ、歩道のない新石狩大橋を渡ると、大きな道が一直線に延びて先が点になっている。さすが北海道。16時30分 JR 北海道医療大学前駅着。JR 札沼線で札幌に戻った。

<一直線の道>

宿は「東横イン札幌駅南口」3日目泊。

【第10日】6月11日（水）晴時々霧雨 北海道医療大学前駅 ～ 札比内（さっぴない）25km

JR で北海道医療大学前駅へ向かう。真新しい列車は医療大の学生や職員で一杯だ。札沼線は札幌から医療大学前まで電化され、運行本数も多い。沿線は住宅開発が進むだろう。ここから北へ、終点の新十津川方面にはディーゼルカーが1日7本だ。

月形町では旧樺戸集治監（かばとしゅうじかん）本庁舎などがある、月形樺戸博物館に

寄った。樺戸集治監の説明に、『佐賀の乱、新風連の乱、秋月の乱、萩の乱、そして日本最後の内乱西南戦争に負けた士族たちは、政治犯として逮捕され、各県にあった監獄の収容人数は急激に増加した。だが、当時の監獄は、江戸時代の藩牢を改造した程度の施設しかなく、以前から過剰収容が問題となっていたため、国が直轄する大規模監獄が建設された。それが集治監である。樺戸集治監は明治14年開庁。』とある。囚人は道路建設や灌漑溝水路施工や水道敷設に使役され、北海道開拓を担った。



< 樺戸集治監の模型 >

月形町役場前にあった碑に「われら郷土を愛す」とある。余市郡仁木町立仁木小学校創立百周年記念碑に「風雪百年」とあり、当別町立中古屋小学校の碑に「先人の歟音のこる中古屋に 大地の恵みか 輝く楡の子」とある。いずれも苦難を乗り越えてきた先人への感謝と開拓の歴史が刻まれている。同じような碑が道内にはたくさんあるのだろう。都道府県別ランキングに、郷土愛が強いのは、1位沖縄、2位北海道、3位京都、とあった。

札比内駅から列車で月形まで戻り、宿は町営の「月形温泉ホテル」2食付7,500円、バストイレ付。昆布町の「幽泉閣」と同じく、町民憩いの場。

【第11日】6月12日(木) 雨 札比内～滝川 27km

最後の日は雨。雨具のポンチョ式カップとビニールズボンが活躍した。雨の具合で何度か着たり脱いだりする際、リュックを背負ってポンチョ式カップを着なくてはいけないのに、カップを着た後にリュックが残っていたり、カップに頭が入らないと思ったら帽子を被っていたり、など何度もやり直した。



< 道の駅つるぬまにて >

道の駅「つるぬま」で休んでいると、同年輩の方から「歩いているときにもし何かあれば電話をください。仕事でいつも道内を車で飛び回っていますので。」と、名刺をいただいた。ありがたかった。後日、安否を尋ねる電話もいただいた。

石狩川に架かる「滝新橋」を渡って滝川の市街に入り、滝川駅には15時40分到着。長万部から滝川まで259kmを踏破した。

滝川駅から函館本線の普通列車で札幌に戻り、宿はどのホテルも空いていなかったのので、すすきの「ニコー カプセルホテル リフレ」2,800円にした。カプセルはシンプルで快適だ。



< 黄色のカップを着て歩いた道 >

【移動日】6月13日（金） 雨 札幌～(JR)～新千歳空港～(SKY)～神戸空港

新千歳空港 10時25分発、スカイマーク

172便。神戸空港 12時25分着。

料金 15,300円。朝食は札幌でとり、昼食は自宅、仮眠をとってから夕方合唱の練習に行き、練習後 23時まで松屋の定例飲み会。トコトコ歩いている時間の流れを思うと夢のようだ。



■旅を終えて

自分が兵庫県に住んでいても、兵庫県人という意識はないが、北海道の人々には道産子意識を感じる。また、明治維新後に「内地」

から、太平洋戦争後に「外地」などから移住した人たちの連帯意識や、開拓と行政組織とが同時進行で歩んできたような結びつきを感じる。北海道は一種独立国の感がある。

函館の北方民族資料館に寄ったとき、アイヌの現在の生活を紹介するビデオを観た。アイヌの好青年が紹介者となって話をしていたが、冒頭に「私たちアイヌは普通の日本人と変わらない生活をしています」、とあった。何も知らない内地からの観光客向けに制作されたのだろうが、現在でもこういうコメントが必要な時代なのだな、と残念に思った。

北海道の人口は兵庫県と同じ約 550 万人、面積は兵庫県の丁度 10 倍だ。北海道の道は幅が広くて一直線に伸び、先が点になっている道が多い。何時間歩いても景色は変わらないので、単調な歩きになるけれど、広大な自然の中を黙々とただひたすら点に向かって歩くのも、また楽しからずや。歩いていて、歴史教科書に出てくるような史跡は少ないが、田畑や牧草地や学校跡地や集落のたたずまいを眺めていると、どの地でも開拓の歴史がつい昨日のようにあった。

そんな北海道の旅から戻ると、全国の天気予報になるとつい北海道を観てしまい、スーパーで北海道米「ななつぼし」を見つけると人ごとならず思える。妻に聞くと、「ななつぼし」はよく買っていると言う。

今回旅に出ている間に、妻専用テレビの外付け録画装置が壊れた。それでも私が留守なので、録画しなくても韓国ドラマのライブ放送は重ならず観られたようだ。しかし旅から戻ると早速、新しい録画用 USB ハードディスクを買わされ、その上、ガンバッタ貴方にご褒美、とって沖縄県地図をプレゼントされてしまった。まだ宗谷岬まで行っていないというのに。

<滝新橋から観る石狩川、右岸は滝川>